

県立八千代高等学校

目 標

- ・ 国際的な視野に立ち、個性・創造性を発揮し、グローバルな視点で優れたものを追求することができる資質を育てる。
- ・ 地理、世界史、現代社会、英語等における、国際社会の成り立ちや各地域の文化、課題に関する学習を発展させ、異文化理解を促進する。
- ・ 国際理解教育を推進する校内体制の強化と校外組織等との連携協力体制を充実させる。

留学生等との交流会の開催

- (1) 日 時：平成30年11月22日（水）13時から16時
- (2) 会 場：本校の各教室及び体育館
1・2年生 各教室でワークショップと交流会
3年生 体育館でパネルディスカッション
- (3) 留学生等：メロス言語学院の大学院生を含む留学生100名
大学院等に学んでいるアジア諸国からの留学生との交流などとおして、海外留学の現状と課題、またキャリア設計の学習につなげた。
- (4) 選定理由：同学院は、所属する学生を高校等に派遣する交流実績があり、国際理解教育に意欲的である。同学院に学ぶアジアからの留学生100名による大規模な交流会が可能であることから要請した。
- (5) 参加者：全校生徒（9クラス×3学年）1,091名、教職員他48名 計 1,139名
- (6) 内 容：「アジアから留学生100人がやってきた！」
 - ・ 歓迎会 体育講義室にて代表生徒と対面
 - ・ 1・2年生の全クラスに留学生4～5名が配され、授業体験とグループディスカッションやワークショップ等の交流会を行った。
 - ・ 3年生は、体育館で代表生徒と留学生によるパネルディスカッションを行い国別の教育事情や将来の夢などの意見交換を行った。
 - ・ 送別会 留学生100名と関係生徒での記念撮影
- (7) 事前学習：
LHR「アジアへの視点」に関する学習、コミュニケーションの取り方
- (8) 事後指導：
アンケートの実施、キャリア設計シートの作成、大学・学部や国際機関の見学（オープンキャンパス）と成果発表会（全校ポスターセッション）を行った。



(9) 参加者の感想等：

・ 1・2年生

「経済的に恵まれている人（留学生）もいたが、アルバイトをしながら大学院に通っている人もいてすごいと思った。」「好きなアニメのキャラクターが同じだった」、「メイド喫茶のような制服（ロシア）が信じられない」、「インタビューに一生懸命に答えてくれた。まとめの発表時間が少なかったのでゴメンナサイ」など、素直に驚いたことや交流体験をとおしての国情の違い、相手への感謝など感想が記されていた。

・ 3年生

1・2年生と同様に近親感を覚えた意見も多かったが、代表生徒によるパネルディスカッション形式だったこともあり、「国によりこんなに勉強時間が違う（韓国の長時間にわたる学習）とは信じられなかった」、「日本に来られる留学生は（自分に比べ）恵まれていると思う」、「海外の大学院に行くことも考えたい」、「日本のアニメ文化がすごいことを感じた」など、進学事情や経済環境、文化感に関する意見なども見られ、感想は多様であったが相手の立場や自国のことを思う意見も多かった。

海外理解促進のための講演会

(1) 日 時：平成30年6月13日（水） 13時25分から15時30分

(2) 会 場：本校体育館

(3) 講 師：氏名 関 健作 氏

経歴 写真家(フリーランス)、元教員。
青年海外協力隊でブータンに赴任した後、写真家として作品を発表。その傍ら、著述や講演活動を展開している。

提供 関 健作 氏



(4) 参加者：全校生徒（9クラス×3学年）1,092名、教職員・保護者他40名、
計 1,132名

(5) 内 容：「ブータンが教えてくれたこと」

青年海外協力隊でブータンに臨んだ経緯や現地の教育事情、また人々の素朴な暮らしぶりを紹介していただいた。その後の生活の信条の変化や活動内容を、高校生に相応しい内容で語っていただいた。

(6) 事前学習：LHR「グローバルに活躍する」に関するキャリア学習を行った。

(7) 事後指導：アンケートの実施。

国際貢献に関する進路選択や大学での学びに関する進学指導につなげた。

(8) 参加者の感想等：

講演後の質疑応答では数多くの質問の手が上がった。特に、講演者が進路選択で葛藤した様子

と、現地活動の具体の感動や苦勞、その後の活躍、収入などに関する質問が出され、関氏の真摯な回答にうなづく者が多数いた。

アンケートからは、進路選択に悩んだ関氏の姿に自らを投影し共感を覚えた意見が多く、また、国際的な貢献活動を身近に感じた者や志を持つことの大切さを思った者など多数であった。教職員や保護者からも、大変有意義な講演会であったとの感想が寄せられた。

事業の成果

- ・ 日本語学校に学ぶアジア諸国からの留学生100名を招き、全クラス、全学年で交流形態を工夫し、複数の相手と等身大の意見交換ができたことは大変有意義であった。同校とは、次年度も交流事業を継続する予定である。
- ・ 4年前から、ネパールや台湾、韓国、中国に関係する講演者や留学生を招いて、講演会や交流会を開催してきた。今回は、親日国のブータンで活躍された関 健作 氏による魅力的な講演で、アジア諸国のイメージがさらに深められた。また、同氏の進路決定に葛藤する姿が、自らの悩みに直結して捉えられた生徒も多く、大学の学部・学科選択に資するところ大であったと考えている。

今後考えられる新たな取組

- ・ 八千代市国際交流協会等を含む国際理解推進のための連携体制構築
- ・ 海外現地校(カナダ・オコトクス市)との姉妹校協定締結に向けた協議体制構築